

学校教育 目標	豊かな人間性を持ち、自ら学び考え、未来に向かってたくましく生きる子どもの育成
育成を目指す 資質・能力	基礎基本の定着及び自分の考えを書く・伝える力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 単元末テスト平均 85 点以上 (1、2 年) 80 点以上 (3～6 年) ・1 年生の 1 学期はテストを行っていないので、2 学期前半を目安に状況を把握する。 ○算数の「思考・判断・表現」がどの学年も苦手な傾向にある。 ○若干学習の定着が厳しい状況の学年がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 「授業が分かる」「めあて・課題・まとめ」を書けた」「発表や話を聞いている」に肯定的な児童 9 割以上。「自分の考えを話す」「自分の考え (図なども入る) を書いたり伝えたりする」に肯定的な児童 9 割弱。 ○どの項目に対しても児童の肯定感が高い。 ○「自分の考えを話す・書いたり伝えたりする」が比較すると若干低い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ドリル 2 回以上の取り組みは、95%達成。「音読・体づくり」「漢字練習」「算数問題」の 3 種類と週末読書を全校そろっての家庭学習とし、高学年は週末に理科などのプリントに取り組みせ、93%が達成。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 「授業の中で 1 日 1 回以上言語活動 (ペア・グループ学習) を取り入れた」の達成率を 85%から 93%に伸ばすことができた。 2 その他の学力向上に向けた指導の実施状況 ステップタイムの取組は、子どもとの個別面談が 6、7 月に入ったため、計画的に行うことができなかった。家庭学習の取組について、児童アンケートにおいては平均学習時間が「10×学年+10」分は 86%達成しており、保護者の肯定的な回答は 70%であった。	

学力に関する達成指標

国・県・市の学力調査で県・市平均以上にすると共に、
各単元テスト平均を 1・2 年 85 点以上、3～6 年生は 80 点以上にする。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	(授業改善のテーマ) 確かな学力の定着及び自ら学ぶ子ども	
	(授業改善の重点) 言語活動の工夫と板書の構造化及び板書とノートの一体化と基礎基本の定着	
	(取組内容) 自己表現を高める言語活動 (ペア・グループトーク等) を授業の中に位置付ける。 「めあて・課題・まとめ」等を板書に位置付け、書かせる場を設定し、学習内容が定着する授業を行う。 基礎基本の学習の定着のため、宿題の定着や課題のある単元ミニテスト・補充学習を実施。 各学年部で計画的に教材研究や授業準備を行い、テスト結果を見合って事後に生かす。 校内研究に係る教科・領域で検証を行うと共に、各教員が指導案を作成し互見授業を行う。	(家庭・地域の取組内容) 学校から配布されている横瀬っ子「学びのすがた」を参考に家庭学習の習慣化に取り組む。
	(取組指標) 児童が自分の考えを書けるように、「めあて・課題・まとめ」を位置付けた構造的な板書を毎時間構成する。ノートに自分の課題や考え、まとめなどを書く時間を 5 分以上確保する。 ペアやグループ学習を効果的に取り入れる場面を想定して授業づくりをし、活動の目的や方法を工夫し、効果を高める。スモールステップを大切に話す経験を積ませる。 国語と算数のドリルを各学期で 2 回以上取り組む。課題のある学習の補充 (テストのやり直し・個別の取り出し) 1～6 年の系統的な「学びの姿」の徹底。 全員が、年間 1 回以上指導案を作成した授業実践を行う。 毎月 1 回部会を開き、言語活動や課題、まとめの書かせ方の取組について検証・改善をする。	(家庭・地域の取組指標) 各家庭において、学年段階に応じて家庭学習の取組状況を把握し、声かけをする。
(検証指標) ・単元末評価テスト「思考・判断・表現」領域で、達成率を 5%あげることができたか。 ・「自分の考えをかけた」という児童を、5%増やすことができたか。	(家庭・地域の検証指標) 「学習時間(10×学年+10)に取り組んでいる」に肯定的な回答を 5%増やすことができたか。	
【その他の学力向上の取組】 ・月水金の朝 15 分間をステップタイムとして位置付け、授業時間の確保と共に児童実態から苦手な単元の補充、家庭学習の内容と連動したミニテストを行うなど計画的に学習を行う。 ・「横瀬っ子『学びのすがた』」を配布し、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。		